



ベリック・ホール



山手聖公会聖堂



根岸競馬場一等馬見所

関東大震災から100年目 今こそ「モーガン邸」の再建を！

公益社団法人横浜歴史資産調査会理事
水沼淑子

2023年は関東大震災から100年目にあたる節目の年である。関東大震災の3年前、1920年にアメリカのフラー会社の技師として来日し、1937年横浜で没するまで、関東大震災後の横浜復興に尽力したアメリカ人建築家がいる。Jay H. モーガンである。

1923年9月1日、震災のその時モーガンは自身の設計事務所のあったビル内の歯医者にいた。凄まじい揺れとともに椅子から投げ出され、大きな穴に落ちたという。九死に一生を得たモーガンは、その後横浜の復興に尽力する。

横浜の被害は大きく、開港以来築かれてきた関内や山手の外国人居留地も大きく損なわれた。アメリカで多くの実績を積み豊富な経験をもつモーガンに、様々な建築の機会が訪れる。まずは、外国人たちの住まいの再建である。今も山手に残るラフィン邸(111番館)、ベリック邸(ベリック・ホール)など、多くの外国人住宅を手がける。明るいスパニッシュスタイルを採用し、震災の暗い記憶を払拭した。次いで、学校や教会も設計した。関東学院の校舎群や山手聖公会聖堂などである。いずれも地震にも強い鉄筋コンクリート造である。再建されたホテルニューグランドで、竣工後の機能拡張に伴う様々な増築工事を担当したのもモーガンだった。オフィスビルも多く手掛けた。チャータード銀行、ニューヨーク・ナショナル・シティ銀行、香港上海銀行各横浜支店を次々と手がける。1932年には横浜のアメリカ領事館も手掛け、震災後の横浜でモーガンがいかに信頼されていたかを物語る。

横浜での最大の仕事は根岸競馬場の再建だろう。競馬法の改正も相俟って、従来とは異なる巨大な馬見所が必要となり、鉄骨鉄筋コンクリート造地上7階建ての一等馬見所を1929年に完成させ、翌年、ほぼ同規模の二等馬見所も完成させた。後に日本各地に造られる馬見所建築の模範となる優れた建築である。

モーガン自身の私生活はどうだったのだろう。モーガンは来



モーガン邸(焼損前)

日以降大森などに暮らしていたようだが、1931年には横浜との市境に近い藤沢市大鋸の高台に新居を構えた。江の島も遠望する景勝の地である。その住まいこそモーガン邸である。外観は洋風だが内部は和室の要素を取り込み、モーガンの日本への愛着を感じさせる魅力あふれる住まいだった。

しかしながら、モーガン邸は2007年、火災により主屋が大きく焼損し、その翌年には付属屋も同じく焼損した。いずれも原因不明の火災である。整備に向けて動き出していた矢先の災禍だったが、旧モーガン邸を守る会をはじめ関係者は再建の日が来ることをあきらめず、モーガン邸をめぐる活動は続いた。2018年からは新たにヨコハマヘリテイジの元、再建に向けて動き出し、現在募金活動が進められていることはご承知のとおりである。

自然災害はもちろんのこと、現在でも予期しない様々な災禍が世界で起こっている。それを乗り越えるためには「再生」が不可欠であり、モーガン邸の再生は、私たちは災禍には負けない、という強いメッセージなのである。

旧モーガン邸の再建・管理

正念場・モーガン邸再建に向けて

米山淳一

公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事

二度の火災で焼損したモーガン邸の再建に向けてNPO法人旧モーガン邸を守る会、藤沢市、当公益社団(以下ヘリテイジ)は、2021年以来、力を合わせて再建に向けて取り組んでいます。再建する建物は、モーガン邸を復元的に再建するもので、「藤沢ヘリテイジセンター モーガン邸」(仮称)と名づけ、藤沢の文化交流拠点としての活用をめざします。

ヘリテイジセンターとは、英国シビクトラストが地域で歴史を生かしたまちづくりを推進するローカルアメニティーソサエティー(地域環境保全団体)と協働で設置し、管理運営する文化交流拠点です。まちの歴史や文化を学ぶ資料展示や地域環境保全団体が活動を行う拠点でもあります。運営は、地域環境保全団体が核となり、市民の支援を受けて行っています。スタッフは、地域保全団体の会員がボランティア精神を基に関わっています。また、運営資金は、入館料やイベントや見学会の開催による収入、喫茶の提供、さらに書籍、玩具、装飾品、アンティーク等を寄付していただき、これを販売することで、収益を上げています。このような形を参考にして藤沢の生活文化に馴染む形での運営を検討し、実践いたします。モーガン邸は2000坪と広大な敷地があり、野外活動の場としても活用が期待されます。



国の登録有形文化財を目指すモーガン邸中門

計画では令和6年度から再建事業を開始いたします。現在、再建委員会の開催の他、隣地境界の確認、藤沢市と関連協議、NPO法人旧モーガン邸を守る会との意見交換など様々な事柄を進めています。しかしながら、一番欠けているのが、再建資金です。再建事業は、7,000万円あればスタート可能と専門家からご意見をいただいております。現在は約6,000万円で、あと一息です。藤沢商工会議所や議員の皆様にもお願いいたしており、今後も協議を重ね、募金活動を推進いたします。会員のみならず、関係者のみなさま、ぜひとも格別のご支援、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

これからの旧モーガン邸

佐藤里紗

NPO法人旧モーガン邸を守る会

旧モーガン邸は2021年度から、公益社団法人横浜歴史資産調査会(ヨコハマヘリテイジ)が全体を管理することになりました。

旧モーガン邸の敷地は藤沢市とヨコハマヘリテイジが所有し、一体としてヨコハマヘリテイジが管理し、私たち「NPO法人旧モーガン邸を守る会」が管理委託契約により、以前と変わらず活動を続けています。2021年3月末まで所有者であった公益財団法人からの管理委託を引き継ぎましたが、大きく異なるのは、旧モーガン邸の復元的再建をめざすことになった点です。やっとここまでたどり着きました

あれからおよそ2年が経ちました。ヨコハマヘリテイジ、藤沢市、守る会の三者による再建活用検討会が行われるようになり、12回

ほど会を重ねています。また専門家の先生方、ヨコハマヘリテイジ、守る会で構成される再建委員会も募金リーフレットの作成をはじめ、再建部会と活用部会で動いています。募金活動の推進と並行して基本設計や活用計画の検討も進めています。

旧モーガン邸は静かな住宅地の中で緑に囲まれひっそりと佇むイメージです。観光地ではありませんし、商業地でもありません。建築家モーガンが愛したここ大鋸の丘を地域の方々に愛される場所に育てていかなければなりません。現在は毎月8日の庭園公開と第3日曜日の清掃ボランティア活動とその後の公開を中心にアートイベント等で年間30~40日公開しています。再建後はもっと公開日を増やして、昭和初期の雰囲気を生かした庭園と建物を多くの皆様楽しんでいただきたいと思っています。これまでも多くのサポーターが様々な分野で活躍して下さっていますが、これからは更に庭園の手入れ、イベント企画、広報に人材が必要です。一緒に活動して下さいませんか。旧モーガン邸の自然を生かしたワーク

ショップやツアー企画、ITに強い方も歓迎です。ぜひ一度旧モーガン邸に足を運んでください。

湘南と呼ばれる地域に分布する歴史ある別荘や邸宅の一つとして、誰もが楽しめる、心休まる場所となるよう「藤沢ヘリテイジセンター・旧モーガン邸」(仮称)を応援してください。再建資金はまだ不足しています。私たちもモーガン邸の魅力を生かしたイベントで寄付を募っていきます。どうぞ引き続きよろしくお願い申し上げます。



▲▶旧モーガン邸を守る会によるイベント風景。「まちたん」と「まち歩きツアー」





笑顔で記念撮影

公益社団法人横浜歴史資産調査会の法人化10周年と 歴史を生かしたまちづくり30周年記念式典・祝賀会開催報告

2023年2月14日火曜日、山下公園界隈の歴史的景観の要となっている横浜ホテルニューグランド本館2階のレインボーボールルームで標記の式典を開催いたしました。当初の計画では3年前に行う予定でしたが、感染症の拡大で延び延びになっておりました。感染症の状況をにらみ、昨年9月に急逝された宮村忠会長の遺志を継ぎ、遂に開催の運びとなりました。当日は、感染症の影響を考慮して当初の120名規模から約60名に定員を絞り開催いたしました。当日の次第は別添のとおりです。会場は横浜市認定歴史的建造物であり、歴史を生かしたまちづくりを横浜市都市デザイン室と両輪で推進する当公益社団に相応しい歴史的空間。お陰様で、会場は皆さまの笑顔に包まれ、一時間近くも延びてしまい、ホテルにはご迷惑をお掛けする始末となりました。

吉田鋼市会長からは、特に長年にわたり当公益社団に多大なご寄付やご支援を賜りました山本博士様（三陽物産株式会社代表取締役社長）と昭和63年の横浜市歴史資産調査会発足時から格別のご尽力を賜りました故宮村忠様（元当公益社団会長）奥様の宮村七重様に感謝の意を伝え、感謝状を差し上げました。また歴史

を生かしたまちづくりの礎となりご活躍された故北澤猛様奥様の北澤良枝様とご長男、北澤さんたちと手を取り合って事業を行った小沢朗様（元横浜市都市デザイン室長）による鏡開きを行いました。お酒は、北澤猛様が幼少期から中学生までの10年間を過ごされた喜多方市（福島県）の地酒。北澤猛様は、都市デザイン室長から東京大学に赴任され、その後教授となり縁あって、喜多方市の歴史を生かしたまちづくりに貢献されたのです。



吉田会長から山本博士様(左)と宮村七重様に感謝状を贈呈



歴史的空間が広がるレインボーボールルーム

さらに当公益社団の森まゆみ理事の講演や、恒例の山手芸術祭でご活躍されているピアニスト後藤泉様と長谷川正英様（横浜市）の解説による演奏会など盛りだくさんの内容でした。

多くの皆様から励ましのお言葉等を頂き、当公益社団の活動の重要性を実感いたしました。そのためにも組織や財政基盤の強化、保護資産の活用・管理計画の充実などに積極的に取り組んでまいります。課題や問題は山積しておりますが、将来に亘り当公益社団の活動への格別のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。（常務理事 米山淳一）

公益社団法人横浜歴史資産調査会
歴史を生かしたまちづくり30周年・法人化10周年
記念式典・祝賀会

次 第

開会挨拶 吉田鋼市会長
祝辞 山本博士（工学院大学理事）
西園城久氏（元横浜の都市デザイン室長）
堀山一男氏（公益社団法人横浜市民協会の理事長）
表辞式 山本博士氏（株式会社「三陽物産」代表取締役社長）
宮村七重さん（前会長夫人）
祝 詞 北澤良枝さん・長生さん
花 村 内山哲久理事
（祝辞等・ご挨拶）
演 講 「歴史の魅力について」
森まゆみさん（理事・作家）
ピアノ演奏 後藤 泉さん 解説 長谷川正英氏（横浜市）
曲目 JS パヴァーディー：アヴェ・マリア
パッヘルベル：カノン
エンターメント：オペラ鑑賞より序曲
祝 辞 亀井泰成氏（横浜市）、比留野氏（鎌倉市）
中継挨拶 水沼誠子理事
閉会挨拶 副会長

※開会挨拶のあとに、堂内前方にて記念写真撮影をおこないます。

令和5年（2023）年2月14日
ホテルニューグランド
司会 米山淳一

お席 **A**

旧湘南電鉄瀬戸変電所の活用に向けて

京浜急行金沢八景駅の上りホームに隣接して、味わい深い工場のような建物が現存しています。歴史的建造物に興味がある人は、駅を利用時に「あれ?いい建物だな」とチラ見しているかもしれません。この建物は、京急金沢変電区事務所、旧湘南電気鉄道瀬戸変電所です。

湘南電気鉄道が、黄金町～浦賀間に開通したのは昭和5年4月。この瀬戸変電所の竣工は昭和4年4月と記録にあります。湘南電気鉄道は、京浜電気鉄道、東京急行電鉄、京浜急行電鉄と変革しますが、平成12年に新瀬戸変電所が運用開始するまで、主要な変電所であり続けました。昭和5年の営業開始後、宿直室が増築され、事務室や仮眠室の改修が行われましたが、当初の建築躯体は保存されており、内部空間の魅力は失われていません。湘南電気鉄道期の変電所で、建屋が残されているのは瀬戸変電所しかなく、三浦半島の大動脈であり続けた電鉄の遺構として大変貴重な近代化遺産です。

建物平面は矩形で、屋根は切妻、外壁はモルタル左官で仕上げ、ケラバや軒の出がなく、ペタリとしたシンプルでモダンな外観です。窓の多くは縦長スチール製で、妻側壁面上部に教会建築のバ

ラ窓を思わせる採光窓があり、外観の特徴となっています。

建物内部は、南側3階、北側2階、中間部は1階から吹抜けの空間構成で、事務室以外は天井がなく、鉄骨トラスの小屋組みを見ることができます。北側バラ窓から光が差し込む重層な空間構成は、現代建築美のような魅力を醸し出しています。

建築構造は、コンクリートの中にH型の鉄骨が描かれている図面があり、鉄骨鉄筋コンクリート構造のようです。隣接する横須賀では、震災復興時に海軍関係施設が多く建築され、その構造軸組みに、軽量鉄骨を組み合わせ、コンクリートで被覆する工法が多くみられます。これは、現在の鉄骨鉄筋コンクリート構造というより、コンクリートで鉄骨造に耐火被覆するという考えに近いようです。この建築の時期や位置を考えると、当時の海軍建築局の意向が働いている可能性があります。ヨコハマヘリテイジでは、山手総合計画研究所及び長坂設計工舎に委託し、耐震診断を行い、十分な耐力を持っていることを確認しました。

現時点では、変電所機能が移転され、建物の主用途が失われています。ヨコハマヘリテイジでは、関東学院大学黒田研究室の協力により、3Dスキャンによる調査を行い、現在、京急及び横浜市とともに、新たな活用の姿を探求しています。近い将来、昭和初期の鉄道遺産であり、近代建築の魅力を持つこの旧変電所に、新たな命が芽生え、多くの方々が活用している姿を想像するとわくわくします。(公益社団法人横浜歴史資産調査会 研究員 亀井泰治)

▶黒田泰介先生の3Dスキャンによる調査画像



シルクロード・ネットワーク 神戸フォーラム2022開催報告

2023年2月25・26日にコロナ感染拡大防止のため3年間延期になっていた神戸フォーラムを開催し、全国から約40名が参加しました。今回フォーラムは6回目になりますが、初めての西日本開催になりました。

25日は元生糸検査所だったデザイン・クリエイティブセンター(KIITO)の生糸検査所ギャラリーを元検査員の方のご案内で見学。その後、港湾地区、神戸市歴史博物館(元横浜正金銀行の建物)、旧居留地を徒歩で見学し、神戸港ハーバーランドから、トワイライトクルーズを楽しみました。

26日は10時から15時半過ぎまで、国交省の「歴史まちづくり」、文化庁の「伝統的建造物群制度」に関して、神戸から「神戸絹の道」「1938・神戸港一油彩画を調べてみたら…」「未来を紡ぐカイコ」、また養父市はじめ川越市や日野市からの事例報告とシルクにかかわる興味深い講演が続き、充実したフォーラムとなりました。



フォーラム会場のKIITO



2023年2月25日。神戸港クルーズ船コンチェルトの前で

旧モーガン邸再建のため ご寄付のお願い

再建にあたり当公益社団では、再建委員会(委員長水沼淑子)を開催。再建計画、事業計画等をまとめ事業を推進中です。再建費用は、日本ナショナルトラストから引き継いだ火災保険金の一部と皆様のご寄付で賄います。目標額は1億円。現在、たくさんのご寄付を賜りつつあります。引き続き皆様のご寄付を心よりお願いいたします。

個人=5,000円(一口)・団体・企業等=100,000円(一口)

振込先: ゆうちょ銀行 口座番号: 00270-4-124271

加入者名: 公益社団法人 横浜歴史資産調査会

※モーガン邸寄付と明記をお願いします。

ご寄付をくださったみなさま。ありがとうございます。

(敬称略。2023年1月15日~3月15日現在)

金木伸浩 10,000円 | 三陽物産株式会社 代表取締役 | 募金(匿名) 16,680円
網河 功 30,000円 | 社長 山本博士 1,000,000円 | 募金(匿名) 1,000円

■『ヨコハマヘリテイジスタイル 2023年春号』 ■発行/2023年3月31日 公益社団法人横浜歴史資産調査会

■事務局/〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405

TEL・FAX/045-651-1730 E-MAIL/yh-info@yokohama-heritage.or.jp

ホームページ <http://www.yokohama-heritage.or.jp/>